

終章

1. 理念・目的・教育目標の達成状況

本学は、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、「三無主義」（出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える）の学風を掲げ、6学部3大学院研究科6附属病院からなる「健康総合大学・大学院大学」として教育、研究、診療・実践、そしてリベラルアーツを通じて国際レベルでの社会貢献と人材育成を進めている。

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに則した教育を展開し、学生の個々人の事情を踏まえたきめ細かな支援・指導を実践している。この結果、学部における学修成果の指標として重視している各種国家試験合格率、教員採用試験受験者数・合格者数結果、企業就職率に関しては、いずれも毎年、全国平均を大幅に上回る実績を上げている。

大学院における学修成果の指標としては、学位論文の質を重視している。インパクト・ファクター（IF）の高い学術雑誌に数多くの論文が発表されていることは、当大学院に、質の高い大学院教育とともに優れた研究成果を生み出せる確かな指導力があることを証明している。

今回の自己点検・評価の結果から、大学全体としては、教育・研究関係、学生関係、管理運営・財務関係において、それぞれの基準を満たしていると考えますが、継続的に様々なレベルでPDCAサイクルを回し、大学改革を進め、更なる高みを目指していきたい。

2. 優先的に取り組むべき課題

1) 内部質保証の推進

学生が、「何を学び、身に付けることができたか」を学生・教員が共有し、教育の質向上を図るため、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果を可視化する取り組みを加速する。具体的には、授業科目ごとの厳格な成績評価に加えて、コンピテンシーの達成度評価、CBT(Computer Based Testing)、OSCE(Objective Structured Clinical Examination)、実習・演習時のルーブリックを用いたアセスメント、TOEFLスコアの上昇度等の指標を組み合わせ、学習ポートフォリオも活用して、学生の学修成果を多元的に評価・把握し、それらを可視化する。また、授業評価アンケートについて、従来から実施している授業毎のアンケートの質問項目を全学で共通化し、標準化を図るとともに、新たに授業科目終了時のアンケートも実施し、授業改善に生かす仕組みを整備していきたい。

2) 学生の受け入れの公正確保

学生の受け入れの公正性・適切性の確保については、2020(令和2)年度に、全学部・研究科で「入試検証委員会」を設置し、関連する規約を整備した。同委員会では、検証チェックリストをもとに選抜方法・選考プロセスを含む学生の受け入れ全体の公正性・適切性を検証することとしている。今後も公正かつ適切な選考を行い、アドミッション・ポリシーで求める資質、意欲を有する学生の受け入れを進めていく。

3) 国際化の推進

2020(令和2)年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で海外渡航が制限されたことで、留学生の派遣数・受け入れ数ともに大幅減となったが、引き続き留学協定校の増加、双方向交

流の加速、教員の交流・共同研究の促進を図っていききたい。

教育の国際的通用性に注目が集まる中、本学では、「TOEFL」、「IELTS」を中心とした英語教育を全学で推進しており、入学試験においても、国際化に対応できる素養を持った学生を求め、両試験に代表される外部評価機関の得点を出願条件に加える等の改革を継続したい。

4) 研究の推進

研究面では、基礎医学と臨床医学が有機的に連携する優れた研究体制を築いてきたことが、多数の国際レベルでの論文発表に繋がっている。引き続き、国際共同研究を推進し、質の高い論文数の増加に注力していききたい。

2019(令和元)年には、学内外の研究開発シーズの社会実装を図るため、外部エキスパートとも連携し、ワンストップのインキュベーションサービスを提供する取り組みとして、オープンイノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」をスタートさせており、各種の取り組みが進捗している。2020(令和2)年3月には、順天堂医院が医療法に基づく臨床研究中核病院として承認されており、国内外における更なる臨床研究の発展が期待できる。

また、近年は、積極的な産学官連携活動により、共同研究講座・寄付講座の設置数を急速に増やしており、その数は50講座を超え、国内有数となっている。今後も、この流れを継続し、最先端の研究成果を社会に還元していききたい。

5) 新型コロナウイルス感染症への対応

感染防止の観点から、対面授業に代えて、同時双方向型の遠隔授業やオンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業等、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で、学生が授業を履修できるように環境整備を進めてきた。今後も感染対策を徹底し、授業に限らず、学生・教職員が安心して教育・研究活動に取り組めるように努めていきたい。

3. 今後の展望

1) 施設の整備・拡充

大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、2020(令和2)年度で13年を経過したが、当初方針の通り原資を手元資金で賄い、財務状況に影響を与えることなく各キャンパス・附属病院における施設の拡充計画が順調に推移している。

特に、本郷・お茶の水キャンパスでは、順天堂医院の建替えが完了し、センチュリータワーを中心とした教育研究環境も飛躍的に改善している。2020(令和2)年9月には、新研究棟であるA棟(Ⅱ期)が竣工し、2018(平成30)年12月に竣工した高層棟A棟(Ⅰ期)とともに先進的研究の国際的な交流推進拠点となった(現7号館)。また、本学は、文京区が推し進める旧元町小学校の再編事業の事業者を選定されたことを受けて、AIインキュベーションファーム、スポーツロジセンター及びGAUDIに関する事業にも取り組んでいる。

さくらキャンパスでは、2021(令和3)年度のスポーツ健康科学部の入学定員増(410名→600名)にあわせて、講義棟・学生寮を整備した。更に、プール、体育館及び演習室を整備する予定である。

終章

今後も、計画に沿って着実に各種事業を進め、施設の整備・拡充を図りたい。

2) 教育・研究組織の規模拡大

2021(令和3)年度は、スポーツ健康科学部における入学定員増により、教育・研究組織の規模拡大を図った。今後も、入学志願者の増加が続いている既存学部・大学院研究科における入学定員増の検討を進めたい。

千葉県浦安市日の出地区には、本学5番目のキャンパスとして浦安・日の出キャンパスの整備を進めており、Ⅰ期として医療科学部(臨床検査学科・臨床工学科)を2022(令和4)年4月に、Ⅱ期としてデータサイエンス系の学部を2023(令和5)年4月に開設する予定である。今後も、本学の理念・目的を踏まえ、新学部・研究科等の開設に向けた検討を行っていく。

4. おわりに

大学を取り巻く環境や大学に求められることが変わろうとも、学是「仁」、理念「不断前進」、そして学風「三無主義」からなる順天堂人としての文化、風土はぶれることはない。今後も順天堂は、永き良き伝統を継承し、自ら改革することを怠らず、教育、研究、診療・実践の質を高め、国際的にも評価され続ける「健康総合大学・大学院大学」として、人材育成と社会貢献を進めていきたい。

2021(令和3)年10月

順天堂大学学長 新井 一